

トラック待機時間の短縮に取り組む

名古屋工場でドライブスルー方式採用

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）のプレカスト事業では、ドライバー不足が深刻化するなかでプレカスト部材の積み込み待機時間の短縮に取り組んでいる。名古屋工場では積み込みやすさを考慮した「ドライブスルー方式」の工場レイアウトにした。「各工場とも工場に入ってから積み込んで出ていくまでの所要時間を当面は60分、将来は30分まで短縮していきたい」（同社）。

同社プレカスト事業 働日数が少なかった割には5月度、構造材加工には好調。外販受注2実績9万6341坪（前年同月比6・3%増）、羽柄材が6万5164坪（同5・7%増）、合板5万1119坪（同0・7%減）と、大型連休があり稼働きが止まらず、パワーアップなど需要は

堅調なようだ」（同社）。非住宅は8815・3坪、受注比率は9・4%と高位を維持。7%台だった前年平均から増加している。課題は物流問題だ。

合板工場が相次いで竣工していることなどから「あえて速くの工場から調達するのではなく、近くの工場から買って距離に応じた運賃にしてみようという方が、お互いに良いのではないか」（同）という。敷地の広い佐賀工場ではトラック待機時間が平均31分と短い。他の工場も待機時間の短

縮、AIなどを活用した積み込みの仕組みづくりなどに取り組む。「トラックドライバーが喜んで来てくれる工場にしたい」（同）と考えている。現状では100分ほど掛かる工場もあるが、当面の目標は60分で積み込みを終わらせること。社員には玉掛けの資格取得も促し、ドライバーの負担軽減に努める。大型車を使った中継地点までの配送と、そこからの小口邸別配送を組み合わせるなど効率的な運用を進めていきたい考えだ。